

単なる趣味のはなし

山方町企画課

木村 雅之



ハテ、何を書いたらいいのか。カルーイ気持ちでこの寄稿をお受けしてしまったが、頭の中はマッシュロケである。そんなわけで、そこいらにココロココろがっているような他愛のない個人的な趣味についてひとつ。

さて、趣味とは何なのか。私の古びた辞書によると「実用や利益などを考えず好きでしているものと」とある。そうなると私の場合、たーくさんある。というより「あった」といった方が適切な表現かもしれない。というのも「熱し易くさめやすい。まるで銅のような素晴らしい性格の持主である私のこと、何ひとつ長つづきしたものがないのである。

そんな私でも、ひとつだけ10数年つづけているものがある。これは正に奇跡としかいいようがない。それは「スキー」である。「趣味はスキーです」などというと、ちょっとミーハー的なのであまり人には言わないようにしている（と言いながら書いてしまった）。

それではなぜ私がスキーをこんなに長くつづけているのか。私なりに考えてみると、どうも私という人間は「いつでもどこでも気軽にできる」というようなものは長つづきしない、という傾向にあるようだ。スキーはご存知のように年中できるわけではない（海外にでも行けば別）。シーズン中にしてもスキーのできる所まで行くには少なくとも2時間程度はかかってしまう。そのため「スキーに行くぞ！」みたいな勇気と決断が必要。そんな大それたものではないにしても—いつでもどこでも気軽に—とはいかないワケである。どうやら

この辺に長つづきの理由があるような気がする。夏の間、あれこれと想いをめぐらし、12月に「雪だー！それ行け！」この繰り返し、これがミソ。

スキーの素晴らしさは、なんと言っても大自然の中で行うスケールの大きさ、それにほかのスポーツと違い、重力という外力を利用して行うものなので比較的体力の差にとらわれることなく、だれでも楽しめるところにある。それに現在のスキー場は、全国約1500万人のスキーヤーのニーズに応えるべく、施設や設備が急速に発展し、とても快適な環境でスキーを楽しめるようになっている。5、6年前までは、カタンコンカタンコンとカメさんスピードだったリフトも最近はどこへ行っても高速リフト（フード付のものまである）の時代。喜ばしい限りである。というわけで私にとって今のところスキーがいちばんあっているのである。

何はともあれ趣味はないよりあった方がいい。フランスの何とかいう社会学者は、21世紀になると余暇時間は労働時間の9倍になると予測しているそうである。「仕事が趣味」などと言っているのは生きて行けなくなる。

経済企画庁の調査によると、余暇の過ごし方として現在約80%の日本人が「テレビを見る」だそう。何となくなさけない。もっとも余暇時間が少なくてテレビを見ることぐらいしかできないのかもしれないが……。

日本も「長期休暇がアタリマエ」の時代が早くやって来ることを願いつつ、おわり——。

【新着資料案内】 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ **【新着資料案内】**

この資料は、昭和63年6月中に到着した主なものです。ご利用下さい。
 閲覧室 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係		茨城県関係	
昭和63年版 観光白書	総理府	中小企業設備近代化資金貸付案内	経営助成課
ミニ統計ハンドブック 地域編 昭和63年	総務庁	茨城県職業能力開発人材バンク登録講師名簿 1988	職業能力開発課
統計局統計センターのしごと	"	求人から採用まで 一就職差別解消のために一	職業安定課
昭和63年版 国土利用白書	国土庁	農用地利用増進事業の実績	農政企画課
昭和61年 医療施設調査 病院報告	厚生省	農林水産の動き 市町村農業の概況	"
昭和60年 主要死因別訂正死亡率	"	新茨城県農業振興基本方策	"
農林水産統計 一昭和63年版一	農林水産省	一豊かさと活力をもとめて一	
第63次農林水産者統計表 昭和61～62	"	茨城の普通作物	営農再編対策課
関東農林水産累計統計	"	茨城の麦	"
茨城県農業の動き	"	茨城の園芸	流通園芸課
昭和61年 工業統計表(品目編)	通商産業省	農作業安全への手引	改良普及課
昭和61年 工業統計表(産業編)	"	茨城の蚕糸業 昭和63年版	蚕糸課
昭和63年 通商白書	"	森林土木標準図	林業課
昭和63年版 中小企業白書	中小企業庁	明日の茨城を創る 昭和63年度 茨城県土木概要	監理課
茨城県関係		鹿島港要覧 1988	鹿島港湾事務所
産業廃棄物処理業許可申請等を行う前の事前審査について	環境管理課	日立港統計年報 昭和62年	日立港湾事務所
原子力施設海洋影響調査報告書	原子力安全対策課	昭和63年度 茨城県水防計画	河川課
63年版 広報・広聴	広報課	茨城県水際線計画調査概要報告書	"
給与の手引(63.4.1)	人事課	都市公園関係法令規集	都市施設課
茨城県職員録 昭和63年5月1日現在	"	茨城の住宅	住宅課
地方公務員災害補償 補償実施の手引	職員課	昭和63年度 学校教育関係事業概要等	教職員第二課
昭和62年度 普通交付税算定資料	財政課	昭和63年度 学習指導改善講座	指導課
昭和62年度 決算状況調査表作成要領	"	人事委員会年報 昭和62年度	人事委員会
自衛官募集事務の手引 昭和63年5月	地方課	茨城県地方労働委員会年報 昭和62年度	地方労働委員会
昭和63年度 事務事業の執行方針	"	県内市町村関係	
茨城公論	企画調整課	統計しもつま 昭和61年度	下妻市
茨城の土地利用	地域計画課	常澄村第3次総合計画	常澄村
茨城の地下水	"	昭和62年統計さんわ	三和町
筑波研究学園都市の工業団地の手引	"	都道府県関係	
昭和62年 茨城県統計年鑑	統計課	昭和60年基準 山形県鉱工業生産指数	山形県統計調査課
社会福祉施設等一覧	社会福祉課	図でみる市町村のすがた	福島県統計調査課
生鮮食料品の地域間格差と流通実態に関する調査報告書	県民生活課	栃木県統計年鑑 昭和62年版	栃木県統計課
麻薬・覚せい剤・大麻取締関係事務手続便覧	薬務課	昭和60年基準 群馬県鉱工業指数	群馬県統計課
毒物劇物指導必携 1988	"	昭和61年版 神奈川県事業所名鑑	神奈川県統計課
企業相互の技術提携の強化のための茨城県企業技術検索リスト工業技術マップ調査	工業振興課	統計からみた福井のすがた	福井県統計課
みえてますかあなたの会社 一中小企業のための施策ガイド一	経営助成課	昭和61年 工業統計調査結果報告	山梨県統計調査課
		三重県勢要覧 昭和62年版	三重県統計課
		昭和61年 工業統計調査結果表	大阪府統計課
		奈良県勢要覧 1988	奈良県調査課
		昭和61年 和歌山の工業	和歌山県統計課

経 済 動 向

国 内 の 動 き

● 貿易外収支の赤字拡大

日本の貿易外収支（運輸、旅行、投資収益など広い意味のサービス貿易の収支）、移転収支（贈与金、無償の経済援助など対価を伴わない取引の収支）の赤字が拡大傾向にある。

海外投資の収益受け取り増で貿易外収支が近く黒字化するとの見方もあったが、海外旅行が予想以上に急増し、ま

た輸入の増加で運輸収支の赤字幅も拡大していることなどによる。貿易外、移転合わせた赤字は今年度100億ドルを上回る見通しで、経済企画庁は、「貿易外収支は今後5年間は赤字を続ける。移転収支も合わせると、当分の間黒字になることはなく、対外不均衡は正に役立つ」とみている。（日経 7月21日付）

● 建設景気の上昇に弾み

経済企画庁が21日まとめた産業動向調査によると、乗用車、旅行など個人消費関連業界、設備投資の恩恵を受ける産業機械、工作機械業界に加えて、一時落ち込みの心配された建設業景気がさらに好調さを増している。

建設大手50社の受注額は、今年4～5月が前年同期比28.1%増と、62年度中より高くなっている。これについて企画庁は、①住宅着工は鈍化しているが、面積ベースでみ

ると5月は前年同月比0.6%増と依然高水準②公共投資も地方自治体は増えている③工場、商業施設など非居住用建築の着工面積が5月に前年同月比20.8%増、また工場用地の造成ゴルフ場建設など民間土木着工額が同36.6%増と大幅に増えるなど、設備投資需要が非常に強い——ことなどによるとみている。（日経 7月22日付）

● 公共投資5.1%増

自治省は22日、61年度に国や地方自治体が住宅、下水道、道路などの公共事業にどれだけ投資したかをみる行政投資の実績を発表した。総額は27兆8608億円で、前年度比5.1%増。一人当たりの行政投資額を都道府県別にみると、香川の394,000円を筆頭に北海道の362,000円、島根の361,000円などが高い。全国平均は229,000円だった。一方、埼玉が最も少なく15万円で、大阪、千葉なども少ない。ちなみに、

茨城は23万円。

事業主体別に国、地方の投資額の割合をみると、国、都道府県、市町村の割合はおよそ2対3対4となった。実際に経費を負担する割合では国が40.1%と最も多く、市町村34.5%、都道府県25.4%で国の比率は低下傾向にある。（日経 7月23日付）

県 内 の 動 き

● 酒類消費量、過去最高に

水戸税務署は30日、茨城県内における62年度の酒類消費量を発表した。それによると合計で15万2996kl（前年比7.9%増）となり、数量は過去最高を更新、伸び率も過去5年間で最高となった。ドライブームや低アルコール志向でビールが大きく伸び、これが全体数量を押し上げた形。成人1人当たりの消費量も78.6ℓ（前年比6.4%増）と過去5年

間で最高だった。

消費量を種類別にみると、シェア63.3%と断然トップのビールが96833klで前年比11.5%増。以下、第2位の清酒（シェア23.8%）が36350klで同3.6%増、焼酎が9722klで同4.1%減、ウイスキーが6190klで同3.3%増となっている。（日経 7月1日付）

● 景気引き続き拡大基調

民間調査機関の常陽産業開発センターがまとめた4～6月の茨城県経済動向によると、底堅い個人消費、高水準の住宅投資などに支えられ、県内の景気は引き続き拡大基調にあることがわかった。5月の県内大型店（百貨店8店、セルフ販売店35店）の販売額は188億1900万円で、前年同月比7.0%増と、4月（同7.2%増）に続いて7%台の堅調な伸びを示した。住宅投資も堅調で、5月の新設住宅着工戸数

は2,731戸、前年同月比18.6%増。5月としては53年の3,137戸に次ぐ高水準になった。このほか、鉱工業生産、民間設備投資もゆるやかながら増勢を続けており、賃金も堅調な伸びを示すなど、各種の指標はおしなべて順調であるため、当面、景気は拡大基調を続けるものとみられる。（日経 7月22日付）